



写真 1

パラソ・ヒガンテ (*Melia Azedarach*) 10年生
砂質土壌、SFN-JICAカビバリ試験地
植栽間隔 4m×4m
5年目に枝打ち(枝打ちは必須作業)
6~8年生 DBH 11/11/16/16cm H9/9/10/11m
写真の箇所は10年 D=14~16cm H=13m
場所によりD=18~20cm、MAXD=26cm

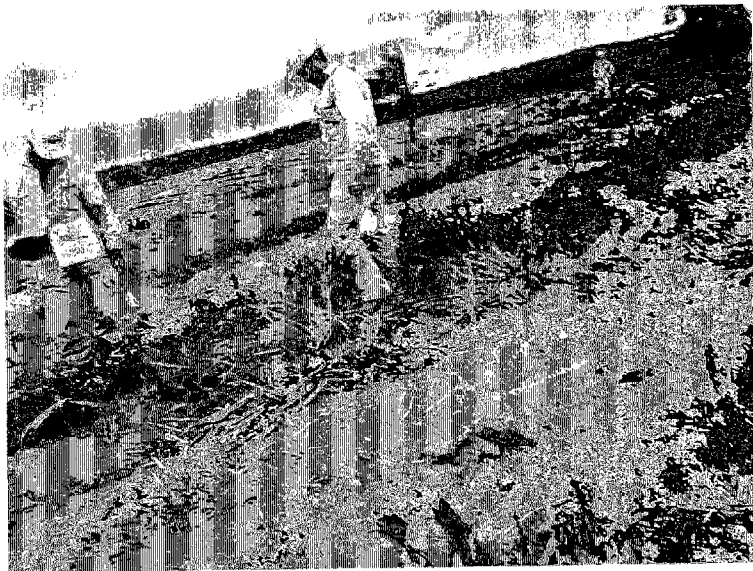


写真 2

アリ駆除作業
(Shell 石油 IGUAZU 林業会社 カアサパ県)
造林地 0.5年生
南米のアリ被害はハキリアリによる樹木の葉の食害で
幼令時に多い。場所によりアリの種、被害タイプが異
なる。アリ駆除は人海戦術。食害を受けた幼樹と地面
を歩くアリを見つけては毒餌を撒く。



写真 3

ユーカリ (*Eucaliptus Grandis*)
(Shell 石油 IGUAZU 林業会社 カアサパ県)
同社は、1万2,000ha所有 1997年から造林開始
専任技術者 8名、種子は南アフリカ、ウルグアイ、
コロンビアから。生産目標: 1,200本植
伐期は11年、DBH=40~45cm H=40~45m
間伐5年目までに300本/ha、TMA=30~35m³/ha
写真の箇所は、3年生 1,600本植
D=20cm H=16~18m
蓄積=100~150m³/ha

写真 4

マツ (*Pinus eliotti*) 25年生造林地
砂質土壌 カピバリ FINAP社有林。
造林後にほとんど手入れはされていない。
目視観測：植栽間隔 3 m × 3 m、DBH=30cm H=30m



写真 5

造林木マツ集成材工場

15年間天然林材を製材していたが、昨年から
造林木マツの集成材（縦接フィンガージョイント）
工場に転換。初年度はブラジルから原料を輸入。
今年度は国内産マツ（DBH=30cm級の全幹材）
を集荷。製品（壁板用モールディリング加工材）は
米国に輸出している。

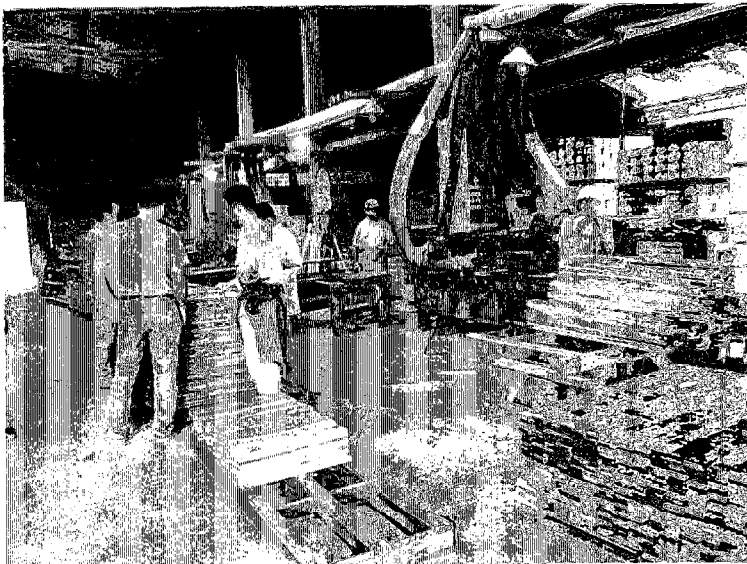


写真 6

造林木パライソの山元製材工場

ドイツ系の会社の自社有林約700haからの間伐材
（10年生末口径10～16cm）を利用。
欧州向けに輸出している。間伐による儲けはないが
間伐材製品が売れるので間伐ができるのがパライソ
の利点とのこと。

パライソ＝パライソ・ヒガンテ (*Melia Azedarach*)
＝アジア原産＝和名タイワンセンダン
＝（俗名）ニセケヤキ（ケヤキ風の木目がでる）





写真 7

環境調整局
(リモート・センシング解析室)

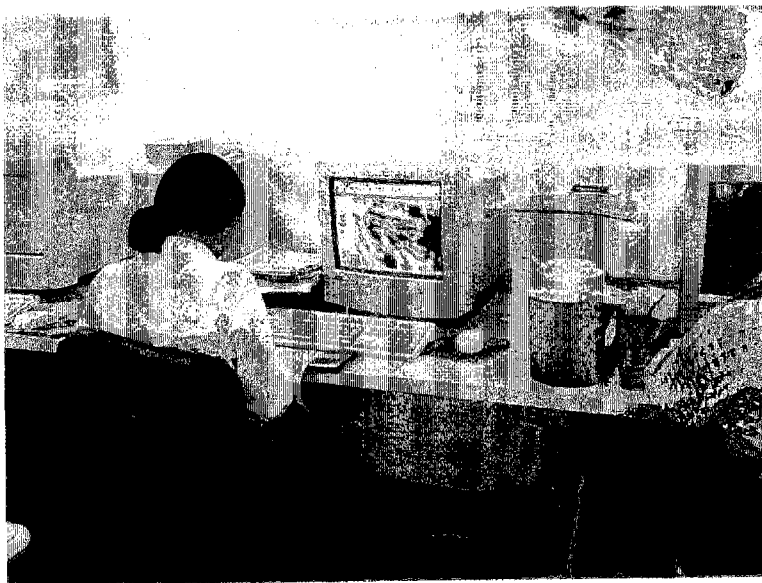


写真 8

環境調整局
(GIS解析室)



写真 9

S/W署名 (1999年11月9日)
前列 左からパラグアイ日本大使、
調査団長、農牧省大臣、JICAパラグアイ
事務所長